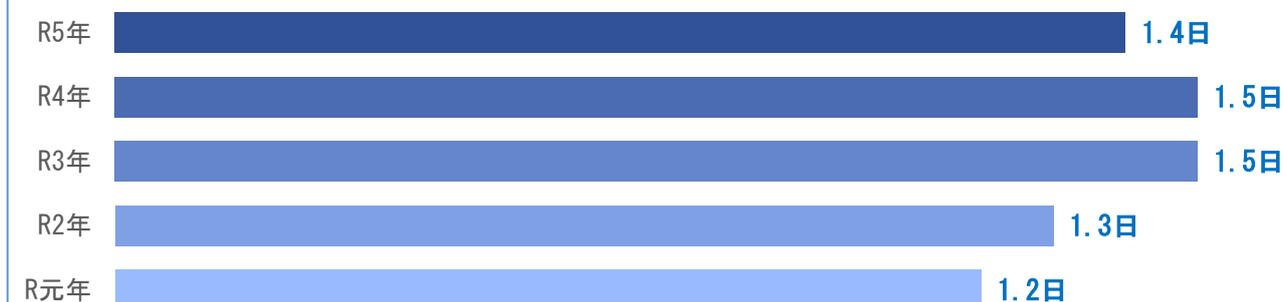


部門に関する臨床指標

指標名		R元年		R2年		R3年		R4年		R5年		説明
薬剤関係	服薬指導施行率	12,530件	51.0%	13,257件	55.8%	14,555件	61.7%	14,863件	68.7%	12,881件	64.0%	入院患者さんに対し、お薬の副作用に関する説明や服薬方法等の説明を薬剤師が説明している比率です。 服薬指導施行患者数 ÷ 総退院患者数 ※総退院患者数は1/1-12/31の延べ人数
	無菌製剤処理施行数	入院	18,862件	18,380件	17,428件	17,261件	19,889件	クリーンベンチ、安全キャビネットを使用し、薬剤師が調製している注射薬の数です。				
		外来	12,855件	12,628件	13,671件	14,693件	15,159件					
検査関係	検査件数	2,897,367件 (輸血9,549件含む)		2,707,548件 (輸血9,285件含む)		2,966,146件 (輸血 8,384件含む)		3,132,224件 (輸血9,700件含む)		3,389,032件 (輸血9,533件含む)		検査件数とは心電図や血糖、尿検査など一つの検査項目の検査総数です。輸血件数とは輸血を行った患者さんの総数です。
	採血患者数	98,926人		92,612人		94,814人		98,593人		100,010人		検査室で採血を行った患者さんの数です。
栄養関係	栄養指導 個人指導数	3600人		3121人		2550人		2,570人		2392人		糖尿病等食事療法が必要な患者さんに対して管理栄養士が具体的な食事の取り方等を説明しています。
	栄養指導 集団指導回数	230回		224回		204回		209回		231回		
	栄養指導 集団指導人数	1327人		846人		775人		837人		881人		
	栄養指導 病棟訪問数	387人		368人		346人		364人		545人		
リハビリテーション関係	理学療法 取扱件数	56897件		55424件		50388件		48079件		51,705件		急性期におけるリハビリテーションの目的は、いわゆる寝たきりや合併症の予防・改善にあります。 ※単位とは、リハビリテーションの時間を表す単位であり、20分を一区切りとしています。
	理学療法 単位数	66670単位		65653単位		59542単位		55650単位		60,084件		
	作業療法 取扱件数	27559件		28373件		24047件		26048件		24,901件		
	作業療法 単位数	32264単位		33269単位		27812単位		29593単位		27,706件		
	言語療法 取扱件数	9513件		11496件		12207件		11890件		11,888件		
	言語療法 単位数	9066単位		8318単位		8555単位		6719単位		4,863件		
	大腿骨頸部骨折術後リハビリ開始日	1.2日		1.3日		1.5日		1.5日		1.4日		股関節大腿近位骨折に該当する入院手術症例における運動器リハビリテーション開始日までの術後平均日数。術日を起算日(0日)として計算しています。
	脳梗塞入院後リハビリ開始日	2.6日		2.5日		2.6日		2.5日		2.5日		脳梗塞に該当する入院症例における脳血管疾患等リハビリテーション開始日までの入院平均日数。入院日を起算日(1日)として計算しています。
放射線関係	放射線検査数	112,676人		109,141人		115,086人		118,641人		124339人		リニアックとは、放射線治療の一つで、高圧の電場で加速した電子を金属の標的にぶつけてX線を発生させ、そのX線を人体に当てて治療を行うことです。診断用のX線装置に比べ、発生するX線のエネルギーが遙かに高いので、身体の深部まで放射線が届きます。
	がんに対する照射療法総数(リニアック)	12,084件		11,133件		10,648件		8,312件		8472件		

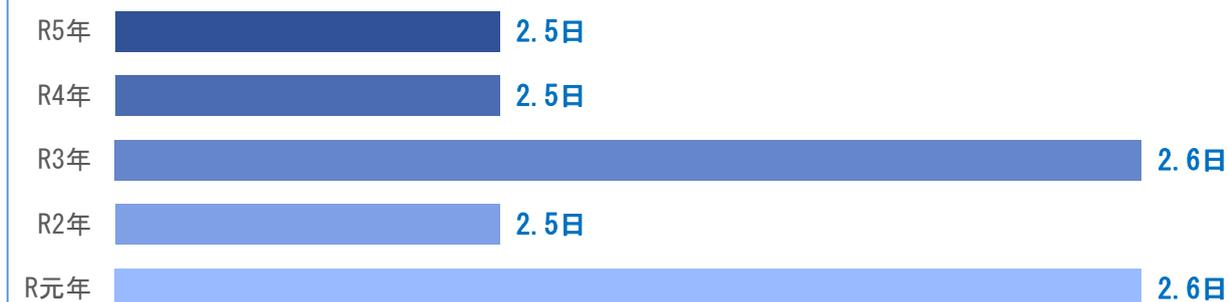
6) 部門に関する指標

大腿骨頸部骨折術後リハビリ開始日



股関節大腿近位骨折に該当する入院手術症例における運動器リハビリテーション開始日までの術後平均日数。術日を起算日（0日）として計算しています。

脳梗塞入院後リハビリ開始日



脳梗塞に該当する入院症例における脳血管疾患等リハビリテーション開始日までの入院平均日数。入院日を起算日（1日）として計算しています。

不動・廃用症候群を予防し、早期の日常生活動作向上と社会復帰を図るために、十分なリスク管理のもとにできるだけ早期から積極的なリハビリテーションを行うことが重要となります。